

ある日の『きらきら保育日誌』より …

午前中のこと。AくんとBくんがストライダーをめぐって大ゲンカをはじめた。

Aくん(5歳児)が乗っていた新車のストライダーに乗りたくて、Bくん(3歳児)がAくんから奪いとろうとしたことが発端らしい。(…その前はBくんが乗っていたストライダーだったとのこと。)

Bくんは泣き叫び、Aくんに掴みかかる。それに対して、Aくんも多少は手加減しながらも、Bくんを突き放す。Bくんよりも圧倒的にAくんの方が強いのだが、Aくんがどれだけ突き放そうとしても、Bくんは一步も引かず年上のAくんに向かっていった。取っ組み合いは、10分ほど続いた。

するとAくんが、Bくんの腕を掴みながら「ごめんっていったら貸してやるけん！ごめんって言って！」

しかし、Bくんは意地でも言わない。Aくんは意地でも言わせたいようだった。

この意地の張り合いも、しばらく続いた。しばらくして、ついにBくんが「ごめん。」と言った。Aくんはそれをきいて、Bくんの手を離す。そして別の場所へ…。Bくんは、やっと手に入れたストライダーで走り出していた。

保育者「Bくん強かったね。ストライダー、Aくんも乗りたかったんでしょ。」

Aくん「乗りたかった…。」

保育者「貸してあげたの？」

Aくん「だって、ごめんって言わしたけん…」

保育者「そうか…。ありがとうね。」

5歳児と3歳児という年齢差がありながら、これだけぶつかり合うことも珍しいが、保育者もびっくりするくらいにBくんが引かなかつた。それだけ、お互いの思いが強かったんだろうと思う。

Aくんは「本当はまだ乗りたかったけど…。」という思いがあるにもかかわらず、Aくんなりに年下のBくんと折り合いをつける方法を考えたのだろうと思う。「ごめんって言ったら…」という自分の主張も入れながら。

これからも自分の思い通りにならない現実と直面する経験がさらに出てくるはず。こうした、子ども同士、しっかりと思いを主張する場を大事にしていきたい。

子ども同士のトラブルは、「人間関係を学ぶ大切な機会」だと考えています。例え、今回のように5歳児と3歳児という年齢差があったとしても、よっぽど一方的な場合やケガしそうなときは止めに入りますが、基本的に、保育者は見守るようにしています。

Aくんは自分が乗っていたものを横取りしようとしたBくんが許せなかったのでしょう。まだまだ乗っていたはずですが、Bくんは、さっきまで自分が乗っていたものだから、「まだまだずっとぼくが乗るはずだった」と思っていたのかもしれませんが。そうしたお互いの思いをまずは十分に出すことが大事だと思っています。大人が間に入ってしまうと、どうしても小さい子、弱い子の味方をしたくなって、上の子に「貸してあげたら？」なんてことを言ってしまうがちです。しかし、大事なことは、「お互いが納得する解決方法を探ること」だと思うのです。お互いに、「なんで、こんなにも相手が怒っているのか」に気付いて、考えてほしいのです。そして、お互いが納得できる解決方法を自分たちで見つけ出せるようになってほしいのです。

今回のAくんも、きっと葛藤があったことでしょう。今は自分が乗っていたのだから、自分には乗り続ける権利がある、だけど相手は2歳も年下で、こんなにも必死に乗りたくて訴えている。悩みに悩みながら、「ごめんって言ったら貸してやる」という結論を導き出しました。安易に諦めて譲るのではなく、もしも、ごめんって謝ってくれるのであれば貸してやろうというところまで譲歩したのです。Aくんにとっては、それが、「これ以上は譲れない」という自分のプライドをぎりぎり守れるラインだったのでしょう。しばらくはBくんも、謝ることができませんでしたが、Aくんの本気が伝わったのでしょう、ついに「ごめん」と言いました。なんとかこのトラブルを解決する方法を見つけ出すことができたAくんも、そして、「ごめん」と言えたBくんも、二人ともすごいなあと思います。こういう体験、いっぱいしながら成長してほしいなあと思います。